

展示 PICK UP

■2F パープルゾーン【江戸・東京】の本を集めたゾーン ~11月12日(金)

「あの頃のオレたち」

戦後間もない1947(昭和22)年から1949(昭和24)年に生まれた「団塊の世代」。彼らの人生は日本の戦後史そのものであり、学生運動の盛んな時期に青春を迎え、バブル期には、猛烈社員として働き、デフレ不況の折にはリストラの危機にさらされました。そして2025年には高齢者医療の問題に直面するとも言われています。そんな「団塊の世代」の歩んできた道について振り返るとともに、今後の社会の課題について考えます。

**昭和の映画絵看板**

- 岡田 秀則 監修
- 貴田 奈津子 企画
- トゥーヴァージンズ
- 2021年

**『罪の声』**

- 塩田 武士 著
- 講談社
- 2016年

**『団塊の世代 新版』**

- 堺屋 太一 著
- 文藝春秋
- 2005年

**『高齢者が働くということ』**

- ケイトリン・リンチ 著
- 平野 誠一 訳
- ダイヤモンド社
- 2014年

9月の展示情報

※展示情報は変更する場合がございます。

**2F パープルゾーン** 「あの頃のオレたち」(~11/12)  
戦後間もない1947(昭和22)年から1949(昭和24)年に生まれた「団塊の世代」。約680万人と世代人口が多く、雇用や消費などの経済活動だけでなく、国の政策にも大きな影響力を持つ世代と言われています。そんな「団塊の世代」の歩んできた時代について振り返るとともに、今後の社会の課題について考えます。

**2F パープルゾーン 三角台** 1階 特別展「紀伊国屋三谷家コレクション 浮世絵をうる・つくる・みる」関連展示「浮世絵をまなぶ」(~9/19)  
1階 特別展の関連展示として、「浮世絵をまなぶ」と題し、歌川広重や歌川国芳などの「五大浮世絵師」はもちろんのこと、「浮世絵入門」「江戸の浮世絵師」「明治の浮世絵師」の4つのテーマを取り上げて展示いたします。魅力的な「浮世絵の世界」をどうぞお楽しみください。

**3F ブルーゾーン** 「青の本棚」(~10/15)  
「青」は「青春」のほか、若さ・未熟さを表す言葉に使われます。また、メーテルリンクの『青い鳥』のように幸福の象徴となる一方で「ブルー・マンデー」のように憂鬱な気持ちも表し、その印象は様々です。この展示では色彩だけでなく「青」から連想されるものに注目しました。

**3F グリーンゾーン** 「時を重ねる」(~9/17)  
「若さ」も「新品の輝き」も素晴らしいものですが、「老い」も「古い」も、時が刻まれ経験を重ね、味わいが出てきた様子に惹きつけられることもあります。長い時間を過ごしてきた人や物から困難なこの時期を過ごす中で、少しでも豊かな時間を作る為のきっかけを得てもらう展示です。

■3F ブルーゾーン【アート・言語・文学】の本を集めたゾーン ~10月15日(金)

「青の本棚」お薦めの本5選

青色の美しさや作家たちの青春時代を感じられる5冊をご紹介します。

『世界のインディゴ染め』	カトリヌ・ルグラン / 著 出口 雅敏、松永 優 / 監修 本田 万里 / 翻訳	2019年	バイ インター ナショナル
『見果てぬ海』	田川 基成 / 撮影	2020年	赤々舎
『青の時代』	安西 水丸 / 著	2021年	クレヴィス
『トキワ荘の時代』	梶井 純 / 著	2020年	筑摩書房
『青いバラ』	最相 葉月 / 著	2014年	岩波書店

■2F パープルゾーン 三角台【江戸・東京】の本を集めたゾーン ~9月19日(日)

1階 特別展「紀伊国屋三谷家コレクション 浮世絵をうる・つくる・みる」関連展示



2階三角台では、1階特別展「紀伊国屋三谷家コレクション 浮世絵をうる・つくる・みる」の関連展示として「浮世絵をまなぶ」と題し、広重や国芳などの「五大浮世絵師」はもちろんのこと、「浮世絵入門」「江戸の浮世絵師」「明治の浮世絵師」の4つのテーマを取り上げて展示。魅力的な浮世絵の世界をどうぞお楽しみください。



『浮世絵出版論』  
●大久保 純一 著  
●吉川弘文館 ●2013年



『月岡芳年 月百姿』  
●月岡 芳年 画 ●日野原 健司 著  
●太田記念美術館 監修  
●青幻舎 ●2017年

▶▶▶館内では常時マスクをご着用ください。入館の際は、手指消毒・検温・入館票のご記入をお願いします。

千代田区立日比谷図書文化館 広報誌

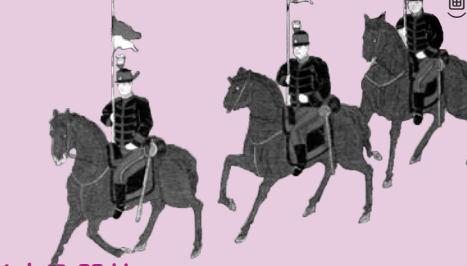
千代田区立日比谷図書文化館 ■ 開館10周年記念特別展

タイムトリップ 江戸から東京へ ~資料で綴る千代田の風景~

千代田区には、今から400年前に遡る将軍徳川家康による江戸城築城および城下町整備に始まり、明治維新後も首府として維持されてきた多くの文化財が残っています。本展示会は2018年の「江戸から東京へ」の第2弾として、千代田図書館が長年収集保存してきた郷土資料を中心に、文明開化以降の歴史を紐解きながら、風景や名所の移り変わりを紹介します。江戸から東京へと風景が推移する中で歴史的な風景の変貌とともに今に残された歴史遺産の存在を感じてください。



◀江戸城新36御門 常盤橋御門(木下栄三画)



◀東京神田神社祭礼図(部分)

2021年 10/22(金) ~ 12/19(日)

関連講座 9月17日(金)より申込開始

11/6(土) 「九段坂400年—絵図・写真でたどる境界の変遷—」  
講師：小藤田 正夫(NPO法人神田学会 理事)

11/13(土) 「江戸城三十六御門を現在に重ねて考える」  
講師：木下 栄三(建築家・画家・江戸文化歴史検定一級)

※11月23日(火曜日)以降一部展示替え

■閉室日：休館日 11月15日(月)、展示替え日 11月22日(月)  
■開室時間：月曜日~木曜日 10時~19時、金曜日 10時~20時、土曜日 10時~19時、日曜日・祝日 10時~17時(入室は閉室の30分前まで) ■会場：千代田区立日比谷図書文化館 1階 特別展示室 ■観覧料：一般 300円、大学・高校生 200円(千代田区民・中学生以下、障害者手帳などをお持ちの方および付き添いの方一名は無料) ※住所が確認できるもの、学生証、障害者手帳などをお持ちください。 ■主催：千代田区立日比谷図書文化館 ■協力：千代田区観光協会 ■監修：後藤宏樹(前日比谷図書文化館文化財事務室学芸員)

各回共通  
●時間：14:00~15:30(13:30開場) ●会場：日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ●定員：100名(事前申込順、定員に達次第締切)  
●費用：1000円(千代田区民500円(住所を確認できるものをお持ちください)) ●お申込み方法：ホームページの申込みフォーム、電話(03-3502-3340)のいずれかにて、  
①講座名、②お名前(ふりがな)、③電話番号をご連絡ください。

calendar 開館時間：平日10時~22時 ■土曜10時~19時 ■日祝10時~17時 ■休館日

2021年 9月							2021年 10月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4						1	2
5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9
12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16
19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23
26	27	28	29	30			24/31	25	26	27	28	29	30

お問合せ先：千代田区立日比谷図書文化館 〒100-0012 千代田区日比谷公園1-4  
TEL：施設代表 03-3502-3340 図書総合カウンター 03-3502-3343  
URL：https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/

お知らせ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴い、開館時間等、掲載されている内容について変更や中止となる場合があります。最新情報については、日比谷図書文化館(03-3502-3340)またはホームページ(https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/)にてご確認ください。ご不便をお掛けいたしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

access [都営地下鉄] ●三田線「内幸町駅」A7出口 徒歩3分 [東京メトロ] ●丸ノ内線 ●日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口 徒歩3分 ●千代田線「霞ヶ関駅」C4出口 徒歩3分 [JR] ●「新橋駅」徒歩10分 ※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

# 9・10月の講座

〈参加申込〉電話(03-3502-3340)またはホームページにて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。当館1階の受付でもご予約を承ります。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

## 9/2 (木)他 文豪たちの素顔 ー明治の名作はいかに生み出されたのか? (全2回)

講師:堀 啓子(東海大学教授)

名作を生み出した明治の文豪たちは、実生活もまた多くのエピソードにあふれています。彼らが、なぜ、どんなタイミングで「あの名作」を生み出したのでしょうか。互いの存在を認め合いつつ、共に明治の女流文人として時代を率いてきた樋口一葉と田辺花圃。文学上の主義は異なれど、互いに認め同等に渡り合った田山花袋と森鷗外。それぞれの生きた背景から名作が生まれた背景を探ります。

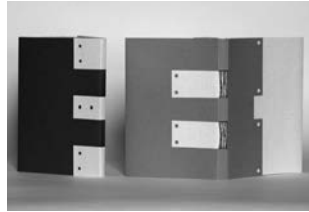


- 日時: 第1回 9月2日(木)14:00~15:30(13:30開場) 樋口一葉と田辺花圃ー明治女流文学の誕生
- 第2回 10月7日(木)14:00~15:30(13:30開場) 田山花袋と森鷗外ー自然主義ブームをめぐって
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:各回100名 ■ 参加費:各回1000円

## 9/11 (土) 特別研究室企画展示関連ワークショップ 「交差式製本」でノートをつくる

講師:藤井 敬子(版画・造本作家)

内田嘉吉文庫の修復に携わる藤井敬子氏をお招きし、同氏が冊子の修復に用いた「交差式製本」の技法を学び、ソフトカバーのノートをつくるワークショップを開催します。「交差式製本」は1990年代イタリアの製本・修復家カルメンチョ・アレグ氏により考案された比較的新しい製本方法です。2枚の紙を交差するように組み合わせることで独特な表情が生まれる「交差式製本」は開きやすく、実用的です。今回の講座ではさまざまな用途に使えるノートをつくります。



交差式製本(藤井敬子氏提供)

- 日時:9月11日(土)14:00~17:00(13:30開場)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール) ■ 定員:20名 ※中学生以上の方にご参加いただけます ■ 参加費:2000円(材料費込み)
- 持ち物:筆記用具(鉛筆またはシャープペンシル)

## 9/11 (土) 千代田区民講座 小中学校でタブレット端末をどう活用すべきか?

講師:田中 博之(早稲田大学教職大学院教授)

今年から小中学校の子どもたちに一人一台ずつのタブレット端末が配布されています。しかし、まだ学校では効果的な活用法が確立されておらず、健康問題やネット犯罪に巻き込まれる危険性についても心配です。タブレットを活用した授業の望ましい在り方についてお話しいたします。(主催:NPO法人神田雑学大学、共催:日比谷図書文化館)



- 日時:9月11日(土)14:00~15:30(13:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:60名 ■ 参加費:無料

## 9/14 (火) 国際法がわかると世界がわかる ー最新ニュースを読み解くために

講師:森 肇志(東京大学大学院法学政治学研究所教授)

「WHO(世界保健機関)」、「パリ協定」といった国際問題の多くは「国際法」と密接に関連していますが、国際法のことはよく知られていないために関連ニュースの理解が難しくなっているかも知れません。本講座では、そもそも国際法ってなに?その歴史は?というところから始め、いくつかの時事ニュースを国際法の観点から読み解いていきます。



- 日時:9月14日(火)14:00~15:30(13:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:100名 ■ 参加費:1000円

## 9/28 (火) 江戸歴史講座 第71回 芭蕉のこぼ遊び~しゃれを用いた句

講師:深沢 眞二(連歌俳諧研究者)

日本古典文学を読む上で、「掛け言葉」「秀句」「しゃれ」などと呼ばれる、同音異義語を利用して詩歌が多重の意味を含むようにする技法の理解は重要である。見過ごされがちだが、芭蕉もそれをよく用いていた。芭蕉発句から「水とりや氷の僧の沓の音」ほかを取り上げ、新たな読み解きを試みる。

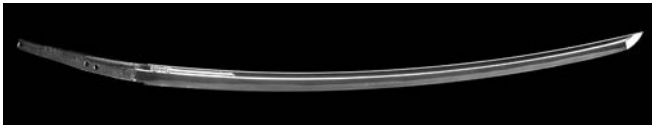


- 日時:9月28日(火)14:00~15:30(13:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:100名 ■ 参加費:1000円(千代田区民 500円)
- ※4月28日(水)開催予定を変更しました。

## 9/30 (木) 江戸歴史講座 第72回/EDO ART EXPO 関連講座 日本刀文化と江戸ー日本刀の魅力とは

講師:井本 悠紀(刀剣博物館 学芸員)

1,000年の歴史をもつ日本刀は、武器としてはもちろん御神体・贈答品・身分標識など、様々な役割が与えられ文化を築いてきた。江戸時代、刃文はデザイン化され、町人文化に根付いた刀装・刀装具は近代工芸の礎となる発展を見せた。いま、我々を魅了する日本刀文化とは何か。その魅力を考えていきたい。



「太刀 銘 国行(号明石国行)」(刀剣博物館所蔵)

- 日時:9月30日(木)14:00~15:30(13:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:100名 ■ 参加費:1000円(千代田区民500円)

## 10/9 (土) 福岡伸一氏講演会 センス・オブ・ワンダーを探して

講師:福岡伸一(生物学者)、上遠恵子(レイチェル・カーソン日本協会会長)

レイチェル・カーソンの遺作『センス・オブ・ワンダー』(不思議さに目を見張る感性)は、コロナ・パンデミックのいまこそ必要とされています。生命の不思議さについて数多くの名著を発表されている福岡伸一さんが、生命の輝きとセンス・オブ・ワンダーをテーマにお話しします。後半は『センス・オブ・ワンダー』翻訳者の上遠恵子さんと対談を行います。(主催:レイチェル・カーソン日本協会 関東フォーラム、共催:日比谷図書文化館)



福岡伸一



上遠恵子

- 日時:10月9日(土) 14:00~16:15(13:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:100名 ■ 参加費:1000円 ■ 申込開始:9月1日(水)

## 10/10 (日) 2020年代のフェミニズムに向けて メディア文化に見るジェンダーの問題

講師:田中 東子(大妻女子大学文学部教授)

この講義では、2020年代のフェミニズムにとって、メディア文化におけるジェンダーの問題の何が課題であり、どのように分析していけばよいのか、具体的な題材を扱いながら、分かりやすく説明していく。受講後に、それまでとは世界がまるで違って見えるようになることが本講義の一番の目的である。



- 日時:10月10日(日)14:00~15:30(13:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:60名 ■ 参加費:1000円
- ※7月16日(金)開催予定を変更しました。

## 10/22 (金) 現代技術でよみがえる伝統木造建築

講師:木内 修(木内修建築設計事務所代表)

穴八幡宮随神門や尾張大国霊神社儼追殿等の新築工事の事例を紹介しながら、建築基準法からも外された存在だった日本の伝統木造建築技術を科学的に解明し、現代技術として再構築した上で新たな伝統建築を創造する手法と未来への継承を考える。(企画・協力:NPO法人建築から社会に貢献する会)



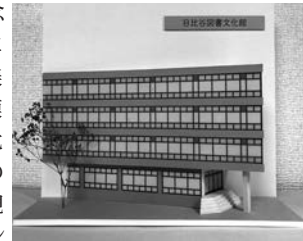
尾張大国霊神社儼追殿内観正面 (写真撮影:新建築社写真部)

- 日時:10月22日(金)17:00~19:00(16:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:100名 ■ 参加費:1000円 ■ 申込開始:9月10日(金)
- ※2020年2月28日(金)開催予定を変更しました。

## 10/23 (土) 日比谷図書文化館開館10周年記念ワークショップ 紙とボードで日比谷図書文化館をつくる(第1回)

講師:今村 仁美(アトリエ イマージュ代表)

日比谷図書文化館開館10周年を記念し、建物の正面だけを切り取った「壁に掛ける建築模型」を手がける今村仁美氏による日比谷図書文化館の建築模型ワークショップを開催します。日比谷図書文化館の建物は独特な形状のため、今回は正面から見た建物の外観ではなく、講師が印象的に感じたアングルでの建築模型を紙とスチレンボードで制作します。日比谷図書文化館を手作りで再現してみましよう。



- 日時:10月23日(土)14:00~17:00(13:30開場)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員:20名 ※中学生以上の方にご参加いただけます。
- 参加費:2500円(材料費込み)
- 持ち物:カッティングマット(A4サイズ程度)、定規(できれば30cm、ない場合は15cm程度でも可)、カッターナイフ(事務作業用)、筆記用具

## 10/30 (土) 文化・芸術でひもとく世界の“いま”① 中国に何が起きているのか? ーSFとサブカルチャーに見る世界の変化

講師:千野 拓政(早稲田大学 文学学術院教授)

同時代の芸術や文化を通じて各国の世界情勢を知るセミナーシリーズを開始します。第1回目は中国。現在、中国では空前のSF文学ブームが起きています。日本でも劉慈欣著『三体』が話題になりました。果たしてなぜSFブームが起きているのか、若者文化を含む社会的背景をまじえてお話します。



劉慈欣『三体』 (大森望、光吉さくら、ワン・チャイ訳、立原透耶監修/早川書房)

- 日時:10月30日(土)14:00~15:30(13:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:100名 ■ 参加費:1000円

## 後期展示 開催中! 9月19日(日)まで! ◆日比谷図書文化館◆特別展◆ 紀伊国屋三谷家コレクション 浮世絵をうる・つくる・みる

出品作の全点展示替えを行い8月18日(水)より後期展示が始まりました! 「うる」「つくる」「みる」をキーワードに浮世絵が当時の人びとのささやかな娯楽品として、また暮らしの中の貴重な情報源として親しまれていたことを紹介しています。どうぞ紀伊国屋三谷家コレクション(千代田区指定文化財)を通して、江戸・明治期の暮らしに華を添えた浮世絵の色鮮やかで闊達な世界をご堪能ください。会場では、浮世絵の摺り体験ができるコーナーもご用意しています。また、公式Twitter (@HibiyaConcierge)では担当学芸員による解説動画を公開中です。



月岡芳年 「月百姿 神事残月」(後期展示)

- 【開室時間】 月~木・土:10時~19時、金:10時~20時、日・祝:10時~17時(入室は閉室の30分前まで)
- 【会場】 千代田区立日比谷図書文化館 1階特別展示室
- 【観覧料】 一般300円、大学・高校生200円、区内在住者・中学生以下の方・障害者手帳などをお持ちの方とその付き添いの方1名は無料(各種証明書の提示が必要)

From Chiyoda Public Library ■ 千代田区立図書館からのおしらせ

## 25万人の小学生が選んだ最強の本!! “こどもの本”総選挙

全国の小学生25万人が、「何度も読む本」「忘れられない本」「宝ものの本」など、心に残った本に一票を投じました! こどもたちが選んだ本ランキングベスト100をパネルで紹介すると同時に、ランクインした本や関連本など合わせて約130冊を展示・貸し出します。

- 会期:開催中~9月25日(土)
- 会場:千代田図書館9階 展示ウォール

